

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
——大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して——

園 田 博 文

（山形大学地域教育文化学部）

山形大学紀要（人文科学）第18巻第4号別刷

平成29年（2017）2月

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

杉本訳『官話急就篇総訳』(大正5年刊)における質問表現 — 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

園 田 博 文

(地域教育文化学部)

1 はじめに

中国語会話書を資料として、現代でも揺れのある質問表現¹について考察する。質問表現にはさまざまなものがあるが、このうち、終助詞「カ」の有無を取り上げ、大正から昭和初期における近代日本語の一端を明らかにするという目的のもとに考察を行う。

たとえば、「どうですか?」「どうですか」「どう?」「どうか」「まだありますか?」「まだありますか」「まだある?」「まだあるか」というような質問表現がある。これらに関する江戸時代の江戸語以来の変遷については、小説等を資料とした田中(2001)や英学会話書を資料とした常盤(2015)の研究でまとめられている。大きな流れは分かっているが、すべてが解明されたわけではない。このため、さまざまな資料で、諸相を見ていく必要がある。

本稿では、明治37年に宮島大八によって著された『官話急就篇』²の訳述書である『官話急就篇総訳』(杉本吉五郎訳、大正5年刊)の質問表現を、他の訳述書³と比較することにより近代日本語について論じていく。他の訳述書とは、同じく『官話急就篇』を訳した『官話急就篇詳訳』(大橋末彦訳、大正6年刊)、『急就篇を基礎とせる支那語独習』(打田重治郎訳、大正13年刊)、および、昭和8年に宮島の手により改訂された『急就篇』に対応する『急就篇総訳』(宮島大八著訳、昭和9年刊)である。

同時に、「カ」の有無に関わる質問表現を通して、『官話急就篇総訳』等中国語会話書の近代日本語資料としての性質も調べることができる。小説、雑誌や英学会話書の場合も、実は同じであり、そこに現れる言葉が近代日本語の一端を表しているとともに、資料の言葉や方針を調べ分析することにより、資料の性質を明らかにすることができる。

2 質問表現に関する先行研究

田中(2001)によると、江戸語・東京語の質問表現にはふたつの変動期が認められるとい

¹ 本稿では「質問表現」という用語を用いるが、「疑問表現」という言い方を用いる先行研究も見られる。
² 詳しくは本文で述べるように、増訂四版以降の版である。
³ 宮島大八の『急就篇総訳』は、自ら著した中国語会話書の総訳なので、他のものとは区別する必要があることは本文で指摘した。日本語の発想が先にあった可能性もあるが、便宜的に「訳述書」に含めた。日本語の発想が先にあった可能性を否定するものではない。

う。第一変動期は化政期で、終助詞「ヤ」が質問表現から姿を消し、その後、終助詞「カ」を中心とした終止形式が多様性を増していくという。第二変動期は、明治初期から中期にかけて起こり、その後、終止部の上昇調イントネーションに質問のもちかけをゆだねる「カ」を避けた終止形式が著しく発達するという。田中（2001）には、貞享3（1686）年『鹿の巻筆』から昭和28（1953）年『言語生活「録音機」19号』までの多様な資料から抽出した2894文を分析した表が載っている。これによると、「文中に疑問の詞を含まないもの」は1465例あり、そのうち「質問の終助詞（カ・ヤ）をもつもの」が1077例（73.5%）、「カ・ヤ以外の終助詞をもつもの」が141例（9.6%）、「終助詞をもたないもの」が247例（16.9%）である。「文中に疑問の詞を含むもの」は1429例あり、そのうち「質問の終助詞（カ・ヤ）をもつもの」が201例（14.1%）、「カ・ヤ以外の終助詞をもつもの」が412例（28.8%）、「終助詞をもたないもの」が816例（57.1%）である。

常盤（2015）では、田中（2001）を挙げて、「この分析には英学会話書は含まれていないのだが、結論としては、東京語の特徴として、口頭語において終助詞『カ』が用いられることは、避けられる傾向に向かうとされている」とし、この指摘を英学会話書の調査結果と比較して「『カ』の出現割合が高いことは、口頭語としてむしろ不自然であるという見方も可能になるのである」という。更に、文中に疑問詞がある例で、欧米人による会話書の嚆矢である『英和日用句集』の日本語では「カ」がないのに日本人の手になる『手引草』では「カ」が補われる例文がある。これについて以下のように述べている。

『英和日用句集』から『手引草』の日本語の改訂にあたって、日本人の著作にこのような日本語がみられるということは、例文の継承という問題が、単に、整った日本語への変化ということだけでは、説明がつかない問題であることを示す。

この問題に関しては、むしろ外国語学習という観点からとらえるべき問題と考えられる。例えば疑問文の文末に疑問詞⁴「カ」を顕在させるメリットとしては、口頭のイントネーションに頼ることなく英語の疑問表現に日本語の疑問表現を対応させることができる点があげられる。このことによって、発話の場面への依存が減り、再現可能な度合いが高まる。ここから、訳出の過程において、ある程度自然な日本語（口頭語）を犠牲にしたとしても、日本語として許容される範囲内において誤解のない形式を重視したのではないかということが推測される。

（常盤2015、129～130頁）

⁴ 本稿でいう疑問詞とは異なるものであり、引用文中の「疑問詞」は「疑問を表す終助詞」という意である。

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
— 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

江戸語・東京語の質問表現は、田中（2001）の研究で明らかになっている。ただ、これらは、写実的な口頭語についてであるため、規範を意識したものや文章語では異なる傾向が見られる。常盤（2015）は田中（2001）の研究を承けて、英学会話書における終助詞「カ」の多用について、外国語学習という観点から捉えるべきであるという。本稿では、この観点の有効性も考えながら論じる。

3 使用資料と分析方法について

3.1 使用資料

本稿で使用した資料は以下の通りである。

- (1)『官話急就篇』（宮島大八）（明治37年8月刊）国会図書館蔵本（初版）
- (2)『官』・・・『官話急就篇』増訂四版（宮島大八）（明治39年9月刊）『中国語教本類集成第二集』（不二出版）所収復刻本（大正7年5月・第46版）
- (3)『急』・・・『急就篇』（宮島大八）（昭和8年10月刊）架蔵本（昭和13年7月・第26版）
- (4)杉本『官総訳』・・・『官話急就篇総訳』（杉本吉五郎）（大正5年7月刊）『中国語教本類集成第二集』（不二出版）所収復刻本（大正6年5月・第6版）
- (5)大橋『詳訳』・・・『官話急就篇詳訳』（大橋末彦）（大正6年9月刊）『中国語教本類集成第二集』（不二出版）所収復刻本（大正10年3月・第13版）
- (6)打田『基礎』・・・『急就篇を基礎とせる支那語独習』（打田重治郎）（大正13年12月刊）『中国語教本類集成第二集』（不二出版）所収復刻本（初版）
- (7)宮島『急総訳』・・・『急就篇総訳』（宮島大八）（昭和9年7月刊）『中国語教本類集成第二集』（不二出版）所収復刻本（昭和9年11月・第3版）

明治37年8月、山形（米沢）生まれ東京育ちの宮島大八により『官話急就篇』が刊行された。これは全文中国語である。この『官話急就篇』は増訂四版で大きく改編され普及していく。『官話急就篇』の訳述書は3種刊行されるが、いずれも増訂四版以降の版をもとにしたものである。このため、本稿における本文および表では、『官話急就篇』増訂四版を適宜『官』と略記し例文を掲げることとする。『官話急就篇』の訳述書は（4）・（5）・（6）であり、それぞれ杉本『官総訳』・大橋『詳訳』・打田『基礎』と略記した。この3種は、宮島が著した中国語の原文を日本語に訳しているため、純粋に訳述書と言える。『官話急就篇』は126版を重ねた後、昭和8年10月、同じく宮島の手により改訂され『急就篇』となる。『急就篇』も昭和20年10月に改訂71版が発行されるまでになっている。本稿における本文および表では、この『急就篇』を適宜『急』と略記した。昭和8年10月刊の『急就篇』をもとに『急就篇』の著者である宮島大八が総訳本として出したものが（7）の『急就篇総訳』（宮島『急総訳』と略す）である。これは、昭和9年7月に出されており、『急就篇』に改訂してから1年も経っ

ていない。すると、宮島『急総訳』は、純粹な訳述書である杉本『官総訳』、大橋『詳訳』、打田『基礎』とは性格を異にした面があるのではないかと考える。たとえば、『官』で「我的衣裳洗去了麼」（『官』文番号98）となっているところが、『急』では「衣裳洗去了麼」（『急』文番号97）と改訂され、宮島『急総訳』では「着物は洗ひに遣りましたか」としている。これなどは、宮島の日本語的な発想による中国語文の改訂である可能性もある。ちなみに、杉本『官総訳』は「私ノ衣物ハ洗濯ニヤリマシタカ」、大橋『詳訳』は「私の着物を洗ひに遣つたか」、打田『基礎』は「私の着物を洗濯にやりましたか」と訳している。

広く中国語会話書を見渡すと、『官話指南』については、内田・氷野（2016）により、版の違いによる詳細な書誌的研究がなされている。一方、『官話急就篇』に関しては、板垣（2013）で『官話急就篇』の初版と増訂四版の構成等が大きく異なっているという指摘がある。『急就篇』については、六角（1992）に昭和23年の重訂初版や昭和27年の重訂再版、昭和39年の『改訂急就篇』について様々な改編の指摘がある。ただ、増訂や重訂、改訂以外の版による違いについての研究はなかなか見当たらない。版を重ねた『官話急就篇』や『急就篇』について、版ごとの微細な差違を解明するには時間がかかる。これは、訳述書についても同じことが言える。本稿では版による違いについては言及できなかったが、版による違いを解明していく作業は重要であり、今後の課題としたい。

3.2 分析方法

本稿では、4種の訳文のうち「問答之上」の比較を通して、終助詞「カ」の有無が関わる質問表現について考える。『官』には102の例文があり、それぞれ問答形式になっている。『官』をもとにした訳文は、前述の通り、杉本『官総訳』、大橋『詳訳』、打田『基礎』である。『官』の102の例文をもとに、微細な変更や大幅な変更をし、場合によっては削除したり新たなものを加えたりして、『急』の100の例文に改訂している。もちろん全く同じ例文もある。『急』に対応するものが宮島『急総訳』である。文章で説明するだけではとても分かりにくいいため、「問答之上」の前の文すべてと後の文で質問に関わる文（『急』文番号21後⁵のみ）をまとめて一覧表⁶にして分析することにした。

以下、【表1】から【表5】全体の表の見方について記す。

- ・備考欄の「削除」は『官』にあった文を『急』で削除したことを表す。
- ・備考欄の「追加」は『官』にはない文を『急』で追加したことを表す。
- ・備考欄の「変更」は『官』から『急』に改訂される際、文意に関わらない変更があったこ

⁵ 後の文なので「後」と記した。

⁶ 4種の訳文には、本文に割注の形で他の表現が記される等、バリエーションが豊富に現れている。ただ、全てを挙げようとすると複雑になりすぎるので、最も優先順位が高いと思われる本文の表現のみを表に示した。

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
 — 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

とを表す。例えば、【表4】にある「一共多兎銭」（『官』文番号33）が「一共多少銭」（『急』文番号34）に改訂されたような例である。

- ・備考欄の「大変更」は『官』から『急』に改訂される際、文意に関わる大きな変更があったことを表す。例えば、【表2】にある「你愛這個」（『急』文番号21後）の例がこれに当たる。『官』では「我愛這個」（『官』文番号19後）であり、質問文ではない。
- ・備考欄の※は、訳文に省略等で終助詞「カ」が現れない場合に付した。
- ・☆は省略等で終助詞「カ」が現れない用例に付した。
- ・★は終助詞「カ」の使用を避けた用例に付した。
- ・△は「カネ」や「ネ」という終助詞が付いた用例に付した。
- ・×は「削除」「追加」「変更」「大変更」により、当該の中国語文がないためその訳文もないことを表す。

以下【表1】は、分析対象としたもののうち、中国語文が質問に関わらない文である。13の例文が挙げられる。質問文なのかどうかの判定は実は難しい。常盤（2015）では、「質問文かどうかは、対応英文の文末に『?』がつくかどうかで判定した」という。英文の場合はこれでよいのだが、中国語の場合は「?」を付ける習慣はなく、実際、『官』にも『急』にも「?」は付いていないので、文意から判断するしかない。第4章で触れた「您早起来了」などは本来この【表1】に入れるような例であり、実際、打田『基礎』では「足下は早く御起きでしたね」と訳しているの、非質問文と捉えている。ただ、中国語の原文を著し宮島『急総訳』を作った宮島は後述するように質問文と捉えているため、【表1】からは除外した。

【表1】中国語が質問文ではないもの（『官話急就篇』『急就篇』『問答之上』）

官文No	急文No	『官』『急』の中国語文	杉本『官総訳』 官話急就篇総訳 (大正5年刊)	大橋『詳訳』 官話急就篇詳解 (大正6年刊)	打田『基礎』 急就篇を基礎とする支那語独習 (大正13年刊)	宮島『急総訳』 急就篇総訳 (昭和9年刊)	備考
54	57	您請坐	您ドウゾオ坐り下サイ	貴下どうぞ御掛けなさい	您ドーン御掛け下さい	どうぞ御掛け下さい	
55	58	您請吃煙罷	您ドウゾ煙草ヲオアガリ	貴下どうぞ御煙草を召上れ	貴下ドーン眞を御上り	どうぞ御煙草を	
56	59	您請喝茶	您ドウゾオ茶ヲオアガリ	貴下どうぞ御茶を御あがりなさい	您ドーン御茶を御上りなさい	どうぞ御茶を	
69	70	您到我家罷	您、私ノ宅ヘオイデナサイ	貴下僕の宅へ御出なさい	您僕の宅へ御出なさいよ	お寄り下さい	
72	71	您再喝一杯	您、モウ一杯オ呑ミナサイ	貴下もう一杯御飲みなさい	您モウ一杯御上りなさい	もう一杯召し上がれ	
74		把窓戸開開	窓ヲ開ケナサイ	窓を御開けなさい	窓を御開けなさい	×	大変更
	73	把楼上窓戸開開	×	×	×	二階の窓をお開けなさい	大変更
78	77	剛纒地動了	今ガタ地震デシタ	今さきに地震がしました	たつた今地震でした	今し方地震が有りました	
82	82	久遠久遠	オ久振デシタ	久しく御無沙汰致しました	久しく御無沙汰致しました	御無沙汰致しました	
83	83	久仰久仰	久シクオ名ヲ承テイマス	久しく御芳名を承つて居ります	久しく御高名を承つて居ります	予て御尊名は承つて居りました	
84	85	叫您受累	您ニオ世話ヲカケマシタ	貴下に御骨折をさせました	您に御面倒をかけました	御配慮有り難う	
85	84	叫您費心	您ゴ心配ヲカケマシタ	貴下に御心配をかけました	您に御心配をかけました	御苦勞掛けました	
87	87	您一路平安	御道中オ無事デ	貴下道中御無事で	あなた御道中御無事に	御道中御大切に	

4 中国語の質問文に疑問詞がない場合

中国語の質問文に疑問詞がない場合をまとめると【表2】・【表3】の通りである。杉本『官総訳』では、終助詞「カ」が付いたもの38例、付かないもの3例であった。付かないものうち1例は「您ハ早クオ起キデシタ？」（「您早起来了」）という例である。この表現は、終止部の上昇調イントネーションに質問のモチかけをゆだねるものである。他の2例は「御姓ハ」（「貴姓」）、「您ゴ機嫌ヨウ」（「您好啊」）という省略の例である。大橋『詳訳』では、終助詞「カ」が付いたもの39例、付かないもの2例であった。付かないものうち1例は「貴下早く御起きでしたかね⁷」（「您早起来了」）という例である。他の1例は「御苗字は」（「貴姓」）という省略の例である。打田『基礎』では、終助詞「カ」が付いたもの38例、付かないもの3例であった。付かないものうち1例は「足下は早く御起きでしたね」（「您早起来了」）という例であり、質問の文というよりは確認の文と捉えている。他の2例は「御苗字は」（「貴姓」）、「您御機嫌宜しう」（「您好啊」）という省略の例である。宮島『急総訳』では、終助詞「カ」が付いたもの43例、付かないもの1例であった。付かない1例は「御名字は」（「貴姓」）のみである。「您好啊」は、省略とはしたが、杉本『官総訳』と打田『基礎』では質問表現ではなく挨拶表現として捉えたとも考えられる。ちなみに、大橋『詳訳』では「貴下御変りはありませんか」、宮島『急総訳』では「お変りありませんか」となっている。

4種の用例を合わせると、省略により終助詞「カ」の付きようがない例6例を除き、終助詞「カ」を伴った例が159例（98%）、終助詞「カネ」を伴った例が1例、終助詞「ネ」を伴った例が1例、「オ～デシタ？」が1例であった。どの訳述書にも特に終助詞「カ」に限定した訳述方針等は書かれていない。以上、終助詞「カ」の多用という結果は、当時の東京語に比して極めて高いと言える。

⁷ 終助詞「カネ」は、終助詞「カ」と終助詞「ネ」が複合したものであるが、ここでは、終助詞「カ」単独のものとは区別して数えた。

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
 — 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

【表2】中国語の質問文に疑問詞がないものⅠ（『官話急就篇』『急就篇』『問答之上』）

官文 No	急文 No	「官」[急] の中国語文	杉本[官総訳] 官話急就篇総訳 (大正5年刊)	大橋[詳訳] 官話急就篇詳解 (大正6年刊)	打田[基礎] 急就篇を基礎とせる支那語独習 (大正13年刊)	宮島[急総訳] 急就篇総訳 (昭和9年刊)	備考
1	1	来了麼	来マシタカ	来ましたか	来ましたか	来ましたか	
2	2	走了麼	出カケマシタカ	出かけましたか	出掛けましたか	出かけましたか	
3		行不行	宜シイカ	やれるか	宜しいか	×	削除
	3	去了麼	×	×	×	行きましたか	追加
	4	到了麼	×	×	×	著きましたか	追加
	5	是不是	×	×	×	そうではありませんか	追加
4	6	好不好	好イデスカ	好いですか	好いですか	良いですか	
5		对不对	合フテイマスカ	合ふて居ますか	合つて居ますか	×	削除
6	7	買不买	買イマスカ	買ふのですか	買ひますか	買ひますか	
	8	可以不可以	×	×	×	宜しいですか	追加
7	9	要不要	要リマスカ	入用ですか	要りますか	要りますか	
8	10	完了麼	完リマシタカ	終りましたか	終りましたか	終りましたか	
	11	有没有	×	×	×	有りますか	追加
12	14	還有沒有	マダアリマスカ	まだあるのか	まだありますか	まだ有りますか	
17	19	在家麼	在宅デスカ	御在宅ですか	御在宅ですか	御在宅ですか	
	21後	你愛這個	×	×	×	これが好きですか	大変更
20	22	你会不会	你ハ出来マスカ	君は出来るか	君は出来ますか	出来ますか	
23		您来不来	您ハ来マスカ	君は御来(おいで)になりますか	你はお出でになりますか	×	大変更
	25	他来不来	×	×	×	あの人は来ますか	大変更
24	26	您有工夫麼	您ハオ暇ガアリマスカ	貴下(あなた)御暇(ひま)がありますか	貴下は御暇がありますか	御暇が有りますか	
25	27	您去過麼	您ハ行タコトガアリマスカ	貴下行ったことがありますか	足下は行つたことがありますか	御出になつた事が有りますか	
35	36	這個表對應	此ノ懷中時計ハ合テイマスカ	此懷中時計は合つて居るか	此懷中時計は合つてますか	此時計は合つて居ますか	
38	40	他回来了麼	彼ハ帰テ来マシタカ	彼は帰つて参りましたか	彼は帰つて来ましたか	あの人は帰つて来ましたか	
46	48	飯得了麼	飯ガ出来マシタカ	飯は出来たか	飯は出来たか	御飯は出来ましたか	
47	49	水開了麼	水ガ沸キマシタカ	水は煮立たたか	湯が沸きましたか	湯が沸きましたか	
	50	沏甚麼茶	×	×	×	どの御茶を入れますか	追加
48	51	貴姓	御姓ハ☆	御苗字は☆	御苗字は☆	御名字は☆	※
50	53	您早起来了	您ハ早クオ起キデシタ? ★	貴下早く御起きでしたか ね△	足下は早く御起きでしたか ね△	早く御起きでしたか	
51	54	喝茶了麼	茶ヲオ呑ミデシタカ	御茶を御飲みでしたか	御茶を召し上りましたか	御茶は御済ましですか	
53		吃了飯了麼	御飯ヲオ食(アガ)リニナリマシタカ	御飯を喰べましたか	52御飯を御上りましたか	×	変更
	56	用了飯了沒有	×	×	×	御飯は御済ましですか	変更
62	65	您会说中国話麼	您ハ支那語ヲ咄セマスカ	貴下支那語を咄せますか	您是支那語を咄せますか	支那語をお話しですか	
63		您認得高兒麼	您ハ高サンヲゴ存ジデスカ	貴下高君をご存知ですか	あなたは高君を御存知ですか	×	変更
	66	您認得某兒麼	×	×	×	誰さんを御存じですか	変更
65	68	您早来了麼	您ハ早ク来マシタカ	貴下早く御出になりましたか	您早く来ましたか	お早く御入来(いで)でしたか	
66	69	這一向忙不忙	コノ頃ハオ忙シイデスカ	此頃御忙しいですか	此頃はお忙しいですか	近頃御多忙ですか	
70	67	您乏了麼	您、オ勞レデシタカ	貴下御疲労なさいましたか	您御疲れでしたか	お疲れですか	

【表3】中国語の質問文に疑問詞がないものⅡ（『官話急就篇』『急就篇』『問答之上』）

官文 No	急文 No	「官」[急] の中国語文	杉本『官総訳』 官話急就篇総訳 (大正5年刊)	大橋『詳訳』 官話急就篇詳解 (大正6年刊)	打田『基礎』 急就篇を基礎とせる支那語独習 (大正13年刊)	宮島『急総訳』 急就篇総訳 (昭和9年刊)	備考
71		你酔了麼	您、酔イマシタカ	君酔つたのか	貴下酔ひましたか	×	削除
73	72	您還沒歇着哪麼	您、マダオ休ナサランデスカ	貴下まだお休みになつて居ませんでしたか	您はまだ御休になつて居ませんでしたか	まだ御休になりませんか	
	74	您沒出門麼	×	×	×	御出かけになりませんでしたか	追加
77	76	車來了麼	車ガ来マシタカ	車は参りましたか	車は来ましたか	車は来ましたか	
80	79	您好啊	您ゴ機嫌ヨウ☆	貴下御変りはありませんか	您御機嫌宜しう☆	お変りありませんか	※
81	80	您府上都好啊	您オ宅デハ皆オ元気デスカ	貴下御宅では皆御変りありませんか	御宅は皆様御丈夫ですか	御宅では皆様御機嫌宜しう御座いますか	
	81	令尊令堂都好啊	×	×	×	御両親は皆御達者ですか	追加
86	86	貴恙好了麼	御病氣ハ好クナリマシタカ	御不快は愈りましたか	御病氣は極りましたか	御病氣は御全快ですか	
89		這是老樣兒麼	此ハ古い形デスカ	此は旧式ですか	此は旧式ですか	×	削除
93	92	您不餓麼	您ハ餓(ヒモ)ジクナイデスカ	貴下餓じくはありませんか	您是餓じくありませんか	お腹(なか)はお空(す)きになりませんか	
	93	你冷不冷	×	×	×	お寒くはありませんか	追加
95		您到過北京麼	您北京ヘ行タコトガアリマシタカ	貴下北京に御往になつたことがありますか	您北京へ御越しになつたことがありますか	×	削除
96	95	這公園裏您進去過麼	此ノ公園ノ内へ您ハ入ツタコトガアリマスカ	此公園の内にあなた入(はい)つたことがありますか	此公園の中へ您入つたことがありますか	此の公園にはお這入りになつた事がありますか	
97	96	今兒有船沒有	今日ハ船ガアリマスカ	今日船がありますか	今日船がありますか	今日は船が出ますか	
98		我的衣裳洗去了麼	私ノ衣物ハ洗濯ニヤリマシタカ	私の着物を洗ひに遣つたか	私の着物を洗濯にやりましたか	×	大変更
	97	衣裳洗去了麼	×	×	×	着物は洗ひに遣りましたか	大変更
99		您告訴他了沒有	您彼ニ咄シマシタカ	貴下彼に咄しましたか	您彼に咄しましたか	×	削除
101		那是兵船麼	アレハ軍艦デスカ	あれは軍艦ですか	あれは軍艦ですか	×	大変更
	99	你看那是軍艦不是	×	×	×	御覧なさい、あの船は軍艦では有りませんか	大変更

5 中国語の質問文に疑問詞がある場合

中国語の質問文に疑問詞がある場合をまとめると【表4】・【表5】の通りである。疑問詞とは「幾」「多少」「怎麼」「甚麼」「那⁸」「那兒⁹」等を指す。4章とは大きく異なり、訳述書によるかたよりが大きい。

まず、杉本『官総訳』を見ると、終助詞「カ」が付いたもの1例（2%）、終助詞が付かないものが48例（98%）であった。

大橋『詳訳』は、終助詞「カ」が付いたもの41例（84%）、終助詞が付かないものが8例（16%）であった。

打田『基礎』は、終助詞「カ」が付いたもの34例（69%）、終助詞が付かないものが15例（31%）であった。

⁸ 現代中国語では「那」「哪」を使い分けているが、当時の中国語の表記としてはどちらも「那」とすることが多かった。ここでは「どれ」（現代中国語における「哪」）という意である。「あれ」（現代中国語における「那」）という意の場合は、疑問詞には含めていない。

⁹ 「どこ」という意である。

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
— 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

宮島『急総訳』は、終助詞「カ」が付いたもの43例（98%）、終助詞が付かないものが1例（2%）であった。

田中（2001）で「文中に疑問の詞を含むもの」のうち「カ・ヤ以外の終助詞をもつもの」が28.8%であったが、ここには「カネ」くらいしか現れていない。そうするとかなり限定されていると言える。「終助詞をもたないもの」は57.1%であったが、打田『基礎』は31%、大橋『詳訳』は16%、宮島『急総訳』に至っては2%というように田中の調査よりもかなり低い。一方、これを超えたのは杉本『官総訳』のみである。しかも98%という高率である。4種の訳述書でこれだけの差異が見られるのは興味深いことである。

【表4】中国語の質問文に疑問詞があるものⅠ（『官話急就篇』『急就篇』『問答之上』）

官文 No	急文 No	「官」[急] の中国語文	杉本[官総訳] 官話急就篇総訳 (大正5年刊)	大橋[詳訳] 官話急就篇詳解 (大正6年刊)	打田[基礎] 急就篇を基礎とせる支那語独習 (大正13年刊)	宮島[急総訳] 急就篇総訳 (昭和9年刊)	備考
9	12	有幾個	幾ツアリマス★	幾つあるか	幾つありますか	幾つ有りますか	
10	13	有多少	イクラアリマス★	何程あるか	何程ありますか	どれ程有りますか	
11		有幾斤	幾斤アリマス★	幾斤ありますか	何斤ありますか	×	削除
13	15	多少人	幾人デス★	何程(どれほど)の人ですか	幾人ですか	何人ですか	
14	16	多少天	幾日デス★	何程の日数ですか	幾日ですか	幾日位ですか	
15	17	怎麼了	ドウシタンデス★	どうしたのか	どうしたのですか	どうしましたか	
16	18	怎麼樣	ドンナデス★	どんな様子ですか	どんな様子ですか	如何です★	
18	20	有甚麼事	何事ガアルノデス★	何事がありますか	何事があるのです★	何か御用ですか	
19	21	你愛那一個	你ハドレヲ好ミマス★	君はどれを好むか	君はどれを好むか	どれが好きですか	
21		今兒幾兒了	今日ハ何日デス★	今日は何日ですか	今日は何日ですか	×	変更
	23	今天幾号了	×	×	×	今日は幾日ですか	変更
22		多嗜礼拜	何日日曜デス★	何日(いつ)が日曜日です★	何日が日曜です★	×	変更
	24	幾時礼拜	×	×	×	いつが日曜ですか	変更
26	28	您幾月走	您ハ何月ニ行キマス★	君は何月にお立ちになりますか	貴下は何月に御立ちですか	何月に御出かけですか	
27		您多嗜走	您ハ何時(イツ)出カケマス★	君は何日(いつ)御出発ですか	あなたは何日御出です★	×	削除
28		您怎麼走	您ハドウ行キマス★	貴下どんなに往きますか	貴下はどう行きます★	×	大変更
	29	由怎麼走	×	×	×	どういふ風に行きますか	大変更
29	30	這個叫甚麼	此ハ何ト云フノデス★	此を何と称へるか	此は何と云ひますか	これは何と云ひますか	
30	31	甚麼東西	何品デス★	何の品ですか	何品です★	何ですか	
31	32	多少錢	イクラデス★	何程ですか	如何程ですか	幾何ですか	
32		這個甚麼個錢	此ハドンナ個段デス★	此はどんな個段ですか	此はどんな個段です★	×	大変更
	33	甚麼個錢	×	×	×	値は幾何ですか	大変更
33		一共多兒錢	皆デイクラデス★	合せて幾らになります★	合計いくらです★	×	変更
	34	一共多少錢	×	×	×	メて幾何ですか	変更
34	35	現在幾点鐘	今ハ何時デス★	今は何時ですか	今は何時です★	今何時ですか	
36		你看甚麼	你ハ何ヲ見テイマス★	君は何を見て居ますか	君は何を見て居ます★	×	変更
	37	你看甚麼呢	×	×	×	何を見て居ますか	変更
	38	有甚麼新聞沒有	×	×	×	何か変わった事が有りますか	追加
37		今兒礼拜幾	今日ハ何曜日デス★	今日は何曜日ですか	今日は何曜日ですか	×	変更
	39	今兒星期幾	×	×	×	今日は何曜日ですか	変更
39	41	他做甚麼哪	彼ハ何ヲシテ居マス★	彼は何をして居るか	彼は何をして居るか	あの人は何をして居ますか	
40	42	他在那兒住	彼ハ何処ニ住ンデイマス★	彼は何処に住んで居ますか	彼は何処に住んで居ますか	あの人は何処に住んで居ますか	
41		他做甚麼買賣	彼ハ何商売ヲシテイマス★	彼は何商売をして居ますか	彼は何商売をして居ますか	×	変更
	43	他做甚麼生意	×	×	×	あの人はどんな商売をして居ますか	変更
42	44	誰來了	誰カ来マシタ★	誰が来たのか	誰が来たか	誰が来ましたか	
43		上那兒去	何処ヘ行キマス★	何処へ往きますか	何処へ行きますか	×	変更
	45	上那裡去	×	×	×	何方(どちら)へ御出ですか	変更
44		這個在那兒買	此ハ何処ア買イマシタ★	此は何処で買ひましたか	此は何処で買ひましたか	×	変更
	46	這個在那裡買	×	×	×	これは何処で御求めになりましたか	変更
45	47	有甚麼用處	何ノ用処ガアリマス★	何の役にたちますか	何の用途があるか	何の役にたちますか	

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現
 — 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

【表5】中国語の質問文に疑問詞があるものⅡ（『官話急就篇』『急就篇』『問答之上』）

官文 No	急文 No	「官」「急」 の中国語文	杉本「官総訳」 官話急就篇総訳 (大正5年刊)	大橋「詳訳」 官話急就篇詳解 (大正6年刊)	打田「基礎」 急就篇を基礎とせる支那語独習 (大正13年刊)	宮島「急総訳」 急就篇総訳 (昭和9年刊)	備考
49		貴処是那兒	御処(オトコロ)ハ何処です★	御処は何処(どちら)です★	御処はどちらです★	×	変更
	52	貴処是那裡	×	×	×	御郷里は何方(どちら)ですか	変更
52		您打那兒來	您ハ何処カラ來マシタ★	貴下何処から來ましたか	53貴下は何処から來られましたか	×	変更
	55	您從那裡來	×	×	×	何方から御入來(おいで)になりましたか	変更
57	60	這一位是誰	コノ方ハドナタデス★	此御方はどなたです★	此御方はどなたです★	この方は誰方(どなた)ですか	
58	61	他怎麼稱呼	彼ノ人ハ何トオツシヤルデス★	彼は何と唱へる方ですか	彼の方は何とおつしやる方です★	あの人は何といふ御苗字ですか	
59		他做甚麼來了	彼ハ何ヲスルニ來タノデス★	彼は何をしに來ましたか	彼は何をしに來ましたか	×	
	62	他幹甚麼來了	×	×	×	あの人は何用に御入來(いで)になりましたか	
60	63	貴國是那一個國	オノ國ハ何國デス★	御國は何(ど)の國ですか	御國はどこですか	御國はどちらですか	
61		您到這兒幾年了	您ハ此処ヘ來テ幾年ニナリマス★	貴下此方へ御出になつて何年になりますか	您是此方へ御出になつて何年になりますか	×	変更
	64	您到這裡幾年了	×	×	×	御入來(いで)になりましたか	変更
64		他做甚麼哪	彼ハ何ヲシテイマス★	彼は何をして居ますか	彼は何をして居ます★	×	削除
67		這是那兒	コレハ何処デス★	此処は何処ですか	此処は何処ですか	×	削除
68		您在那兒住	您ハ何処ニオ住イデス★	貴下何処(どちら)に御住居ですか	足下は何処に御住ひです★	×	削除
75		您上那兒去	您何処ヘ行キマス★	貴下どちらへ御出になりますか	您何処へ御出になりますか	×	削除
76		您上那兒去了	彼ハ何処ヘ行キマシタカ	彼は何処へ行きました★	彼は何処へ行きましたか	×	変更
	75	他上那裡去了	×	×	×	あの人は何処へ行きましたか	変更
79		怎麼了	ドウシタンデス★	どうしたのだらう	どうしたのです★	×	大変更
	78	那是怎麼了	×	×	×	あれは何うしたのですか	大変更
88		您要甚麼顏色的	您ハ何色ノガ要リマス★	貴下どんな色合を入用ですか	您は何色のが御入用ですか	×	変更
	88	您用甚麼顏色的	×	×	×	どんな色に致しませうか	変更
90		一匣子多少	一函ハイクラデス★	一匣(はこ)は何程ですか	一匣(ハコ)は何程ですか	×	削除
91		多兒錢一斤	一斤イクラデス★	一斤はいくらですか	一斤いくらですか	×	変更
	90	多少錢一斤	×	×	×	一斤幾何ですか	変更
92	89	一疋有多長	一匹ハドノ位ノ長サガアリマス★	一疋はどれ程の長さがあります★	一疋はどれ程の長さですか	一疋はどの位有りますか	
91		有甚麼新鮮花樣兒麼	×	×	×	何か新柄が有りますか	追加
94	94	昨天甚麼時候兒回的家	昨日何時(イツ)頃御帰宅デシタ★	昨日はいつ頃御帰りになりました★	昨日何時頃御帰宅でしたか	昨日は何時頃御帰宅でしたか	
100		明兒禮拜、你上那兒遊去	明日ハ日曜デス你ハ何処ヘ遊ビニ行キマス★	明日の日曜に君何処に遊びに行くか	明日の日曜に君は何処へ遊びに行くか	×	変更
	98	明天禮拜你上那裡遊去	×	×	×	明日は日曜ですが、何方へお遊びにお出かけですか	変更
102		這幅額上写的是甚麼	コノ額面ニ書テアルノハ何デス★	此額面に書(か)いてあるのは何です★	此額の面(オモテ)に書いてあるのは何です★	×	大変更
	100	那幅上写的是甚麼	×	×	×	あの額には何と書いて有りますか	大変更

6 訳述方針の考察

本章では、中国語の質問文に疑問詞がある場合に特に対照的な傾向を示した杉本『官総訳』と宮島『急総訳』について見ていく。

杉本『官総訳』については、訳述方針とも関わっているように思える。例言には「本書ノ目的ハ原語ノ意義ヲ訳出スルノ外一面訳語ヲ按シテ原語ヲ暗誦セシムルノ用ニ供セントスルニ在ルヲ以テ成ルヘク原語ノ語気言回シ等ヲ其ノ儘之ヲ表出センコトニ努メタリ故ニ時トシテハ邦語トシテ多少不適當ノ辞句ナキニアラスト雖真ニ已ムヲ得サルニ出ツ読者幸ニ之ヲ諒セラレンコトヲ」とある。質問表現にあてはめてみると、日本語としての自然さとは別に、中国語の質問文に疑問詞がない場合は終助詞「カ」を用い、中国語の質問文に疑問詞がある場合は終助詞「カ」を用いず、中国語の原文の語気や言い回しに対応させた可能性がある。

中国語の質問文に疑問詞がない場合を詳細に見ると、【表2】・【表3】から分かるように、中国語の原文は、疑問の語気を示す語気詞（文末助詞）「麼」がある場合や反復疑問文の「好不好」「有没有」がある場合等である。例外としては、前述の「您ハ早クオ起キデシタ？」（「您早起来了」）がある。例外となった理由としては、中国語の原文に語気詞の「麼」がないので、これに対応させて、日本語にも終助詞「カ」を用いないことにより、中国語の原文を思いおこさせたのではないかということが考えられる。ちなみにこの会話文は『官』では「您早起来了 剛起来」で、『急』では「您早起来了 起来一会兒了」となっている。宮島『急総訳』では「早く御起きでしたか 一寸前に起きました」とし、「注」に「『麼』ハ省略セラル」と述べられている。つまり、中国語において、「您早起来了麼」という明らかな質問文が「麼」の省略により「您早起来了」となり、一見しただけでは質問文か否か判断が難しくなっているということである。実際、大橋『詳訳』では「貴下早く御起きでしたかね」、打田『基礎』では「足下は早く御起きでしたね」と訳している。前後の文脈が限られるので、打田が確認の文に訳したのもひとつの訳し方であり決して間違いではない。ただ、中国語の原文も日本語の訳文も作成した宮島は、「麼」が省略された質問文であるという認識で中国語の原文を作っている。宮島自身、さらに明確にするため、問答の答の部分を「起来一会兒了」から「剛起来」に書き換えたとも言えよう。

中国語の質問文に疑問詞がある場合を詳細に見ると、【表4】・【表5】から分かるように、杉本『官総訳』では、1例の例外を除いて、終助詞「カ」を付けていない。中国語の原文重視という訳述方針が反映されているとすると、「幾」「多少」等の疑問詞がある場合は、終助詞「カ」を付けない方針という可能性もある。あるいは、方針に関わらず、無意識に出てしまう類の表現である可能性もある。

宮島『急総訳』には、訳述方針の記載はないが、注などを手がかりにすることはできる。また、宮島の手になる会話書等は多数刊行されているので、今後調べることは可能である。

杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現

— 大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して —

宮島の場合、中国語に疑問詞があってもなくても終助詞「カ」を付ける傾向にある。これは、日本語の発想（あるいは宮島の発想）がもとにあり、特に規範的で丁寧かつ自然な日本語を模索したものともいえる。仮にこの推測が正しいとすれば、このような場面における近代日本語の会話の実態に近いものであると言える。これは、小説の一場面における会話等とは質の違う日本語の一端を示していると言える。東京語話者である宮島は、日常生活の或る場面で、宮島『急総訳』と同じような終助詞「カ」の使い方をしていたということも考えられる。

7 まとめと今後の課題

以上、先行研究を踏まえながら、杉本『官総訳』、大橋『詳訳』、打田『基礎』、宮島『急総訳』の質問表現を見てきた。中国語の原文と4種の訳文を対照させ、細かな差異も明確になるように表を作成した。この表をもとに、中国語の質問文に疑問詞がない場合と中国語の質問文に疑問詞がある場合に分けて、分析した。

その結果、中国語の質問文に疑問詞がない場合は、4種とも同じ傾向を示したため、まとめて集計したところ、終助詞「カ」を伴った例が159例（98%）であった。これは、種々の資料で73.5%という先行研究での結果と比べると高率で、時代とともに終助詞「カ」を避ける傾向が強まるという指摘とも異なっている。これに関しては、常盤（2015）のいう「外国語学習という観点」とも関連するが、中国語の原文を重視して、「麼」や「好不好」「有没有」に対応させたとも考えられる。

一方、中国語の質問文に疑問詞がある場合は、訳述書により、傾向が大きく異なっていた。種々の資料で「終助詞をもたないもの」は57.1%であったが、大橋『詳訳』、打田『基礎』、宮島『急総訳』は、これを下回った。特に宮島『急総訳』は2%と極端に低い。これは、宮島が中国語の原文の著者であるとともに日本語の訳文の訳者でもあることから、日本語の発想（あるいは宮島の発想）がもとにあり、特に規範的で丁寧かつ自然な日本語を模索したものともいえる。

これとは逆にほとんどが終助詞「カ」を伴わない杉本『官総訳』は、意識的に、「幾」「多少」等の疑問詞があれば終助詞「カ」を付けないというような訳述方針を立てた可能性もある。あるいは、方針に関わらず、無意識に出てしまう類の表現である可能性も考えられる。

今後は、さらに多くの資料で、より明確な結論が出せるよう分析を進めていきたい。

【参考文献】

- 板垣友子（2013）「官話急就篇の初版と増訂版との比較」『中国言語文化学研究』二
- （2016）「官話教科書の日本語訳に関する考察—宮島大八の教本を中心に—」『日中語彙研究』〈愛知大学中日大辞典編纂所〉五
- 内田慶市・氷野善寛（2016）『官話指南の書誌的研究』好文出版
- 園田博文（1997）「明治初期中国語会話書の日本語—『亜細亜言語集』『総訳亜細亜言語集』を中心に—」『文芸研究』一四四
- （1998 a）「中国語会話書における助動詞「です」の用法について—明治10年代を中心に—」『国語学研究』三七
- （1998 b）「『参訂漢語問答篇国字解』（明治13年刊）に於ける訳語の性格—九州方言との関わり—」『言語科学論集』二
- （1999）「日清韓会話書と近代日本語—形容詞丁寧形をめぐる日本語教育の基礎的研究—」『人文学報』〈大韓民国江陵大学校人文科学研究所〉二八
- （2002）『語言自邇集（COLLOQUIAL CHINESE）』訳述書の中国語と九州方言—会話文中における語の解釈—『佐賀大学留学生センター紀要』一
- （2005）「中国語会話書に於ける「へ」と「に」—使い分けについての—考察—」『日本近代語研究 四』ひつじ書房
- （2010）「『日清会話』と『日韓会話』（参謀本部編明治二七年八月刊）—日本語資料としての位置付け—」『近代語研究 一五』武蔵野書院
- （2012）「明治28年刊台湾語会話書の植物語彙に関する—考察—」『台湾語集』『台湾言語集』『台湾会話編』『台湾語』を中心に—『近代語研究 一六』武蔵野書院
- （2016）「『官話指南総訳』（明治三八年刊）の日本語—当為表現・ワア行五段動詞連用形の音便・人称代名詞を手がかりに—」『近代語研究 一九』武蔵野書院
- 田中章夫（2001）『近代日本語の文法と表現』明治書院
- 常盤智子（2015）『英学会話書の研究』武蔵野書院
- 六角恒廣（1992）『中国語教本類集成 第二集 解題』不二出版
- （1994）『中国語書誌』不二出版
- （2001）『中国語関係書書目（増補版）』不二出版

〈謝辞〉

石崎貴士先生には、英文タイトルおよび英文サマリーの作成にあたり、貴重なご指摘をいただきました。記して謝意を表します。

An Analysis on the Question Particle 'ka' in
Sugimoto's Japanese Translation
of Chinese Textbook *Kanwa-Kyushu-Hen*:
Comparing with the Other Versions Translated by
Ohashi, Uchida and Miyajima

SONODA Hirofumi

(Faculty of Education, Art and Science)

This paper is a report on the question particle 'ka' of four Japanese translation versions of the famous Chinese textbook *Kanwa-Kyushu-Hen*. If a question sentence of Chinese does not have an interrogative, all the four Japanese translations showed the same tendency that the usage rate of the question particle 'ka' is very high. If a question sentence of Chinese has an interrogative, the four showed a different tendency that the version translated by Sugimoto has almost no question particle 'ka' while the other three translations use the question particle 'ka' in almost every case, especially in Miyajima's version. One reason for the difference is derived from translation policies and procedures.